

障害抱え 全国で本行商

東京の白井さん 特製自転車使い 広島へ

幼い頃の脳性まひで不自由な体となり、リヤカー付き白自転車による本の行商を行っている東京都立川市の出版社社長、白井隆之さん

(右)が広島市を訪れ、15日、市中心部で本を売り歩いた。自由のきかない体で白自転車をこぎながら、白井さ

んは「本に込められた作者の思いを、制作者の私が直接説明して、多くの人に伝えたい」とほほ笑んだ。

白井さんは、幼い頃の高熱が原因で脳性まひになり、顔や足が思うように動けなくなった。大学卒業後、編集業に就いたが、想像力を培ってくれる

本を自らの手で形にしたいと、

1997年に出版社「燦爛出版社」を設立。宗教や福祉関係など年間10冊程度の本を出版している。

元々、リユッ

クサツクに本を詰め込んで交通機関を乗り継ぎ、書店への売り込みをしていた。しかし、持ち運べる本の数には限界があり、営業先で出

会う人も限定される。もっと多くの本を広く紹介したいと、リヤカー付き自転車での行商スタイルを発案した。

体のバランスが悪いため自転車に乗ることは幼い頃にあきらめていたが、昨年4月、長崎県のメーカーに特製の自転車製作を発注。ペダルを踏む筋力をつけるため、週2回、腕立て伏せやランニングなどトレーニングをして体を鍛えた。

15日は、中区の広島YMCAで約40冊を荷台に積み込み、平和記念公園周辺などで路頭に自転車を止めてプラスチック製の書棚を広げた。

白井さんは「多くの人に手を貸してもらわないと障害者は外にも出られず、日本では家に閉じこもりがち。本に込められた作者の思いを伝えるという作業を通じて、障害について理解してもらおう。かけを作りたい」と話していた。



リヤカー付き自転車の荷台に書棚に本を詰め、P.T.する白井さん（広島市中区で）

広島